

総評

片山和俊 | 審査委員長、東京藝術大学 名誉教授



表彰式にて

今回は新型コロナ感染拡大の影響を受けて1年延期しての再開であった。感染防止の上から直接人に会い共同することが難しい環境から、果たして作品ができるのだろうかと心配していた。従って低調やむなしという思いで審査を迎えたが、審査する間に中々の力作揃いであることがわかり、はじめに応募された皆さんに感謝の意を表したい。

第一次審査(2021年11月11日)は寄せられた作品が34点と多くないことから、野球にちなんでのトーナメント方式ではなく、1作品ごと委員が意見交換をしながらの審査とした。その上で委員による投票と討議を経てベスト8を選定した。

第2次審査(2021年12月13日)は、委員全員で8校から提出された映像プレゼンテーションを1作品ごと見て意見交換し、その上でベスト4選定の投票を行い、その結果を踏まえて討議し各賞の選考を進めた。投票の結果、京都府舞鶴工業高等専門学校「融解と浸透」が満票となり、どの委員からの異存もなく優秀賞に決定した。次点は同票2校に対して意見交換を行い、再度投票した結果、兵庫県明石工業高等専門学校「水紋 ～響き重なるコミュニティの雫～」が準優勝となった。その後、各委員長より推薦を受けて各賞が選定されたが、今回の選定は、初期の段階では作品に甲乙つけがたく時間がかかるように思われたが、最終段階では驚くほどスナリと決まった。

優秀賞の作品は、他を圧するような強さは感じられなかったが、当初から独特な表現が際立っていた。審査を重ね、内容が読み込まれていくうちに、作品が丁寧な観察や組立の上に創出されたものであること、作品テーマのごとく魅力が委員側に徐々に浸透して確かなものになったと思われる。平凡な郊外の町中にある住民間のコミュニケーションのあり方と建築の関係が、細やかな観察と確かな構成に基づき姿を見せ、しかもそれが個性豊かに表現されている。優勝を心から喜びたい。敢えて言えば、発見し位置付けた建築的空間にもう一步踏み込んだ具体的な提案があればもっと強かったかも知れない。

最後に、ベスト8で賞に届かなかった2作品について補足しておきたい。佐賀県の「ときノ廊下」は、重伝建の町に対する担当のそれぞれの提案は良かったが、個々の提案と全体の町並みの関係が希薄という指摘があった。また大阪府「IKUNOMIRAL」は、既存廃校に与えた豊富なメニューに感心したが、建築的にもう一步積極的な提案があればと思われた。たとえば中庭と繋ぐ、既存校舎各階を吹抜けや新たな動線で縦に繋ぐような提案はなかったらうか。力作だけに、コンセプトをより鮮明に伝える空間があればと思われた。